

全員一丸となって優勝を目指す 常葉大学附属菊川中学・高校空手道部



中高そろって全国大会出場

常葉大学附属菊川中学・高校空手道部は、現在、中学生19人、高校生38人で活動しています。中学生は、3月26日から28日に京都府で開催される「第17回全国中学生空手道選抜大会」に、高校生は、3月23日から25日に埼玉県で開催される「第42回全国高等学校空手道選抜大会」にそれぞれ出場します。中・高そろって、男女ともに全国大会へ出場するという快挙を成し遂げました。

優勝に向けて日々鍛錬

全国大会の種目は、中学生が個人組手、高校生が団体・個人の組手と形です。増田亜美さん(中学2年)は、「1年生の時の全国大会は、2回戦で負けましたので、今回はもっと上まで勝ち進みたいです」と抱負を語りました。

団体戦に出場する平松寛太さん(高校2年)は、「東海大会では良い部分も課題となる部分もあったので、全国大会には課題を克服して臨みたいですね。自分はプレッシャーに強いので、負けられない場面でもしっかりと勝つことができるように全力を尽くします」と意気込みました。

空手アジア選手権大会で見事頂点に！



常葉大附属菊川中学
空手道部3年
高塚彩夏さん

同部の高塚彩夏さんは、昨年12月にウズベキスタンで開催された空手アジア選手権に出場し、女子個人形の部で見事優勝しました。高塚さんは、昨年3月に開催された「全国中学生空手道選抜大会」と8月の「全国中学生空手道選手権大会」を連覇。世代別日本代表の一人としてアジア選手権に臨み、頂点に立ちました。高塚さんは、「日本とは雰囲気違って緊張しましたが、競技中は無心で形を打てました。終わった後は『やりきった！』という気持ちでした」と大会を振り返ります。4月には年齢別の日本代表選考会が控えていて、世界に向けた挑戦がスタートします。「もっと筋力をつけてパワフルな技を出し、目標とされる選手を目指したいです」と意気込みを話しました。

仲間とともに高めあって強くなるチーム



常葉大菊川中学・高校
空手道部

塚本 祐基 監督(左)
塚本 真由佳 コーチ(右)

中学生の監督を務める祐基さんは、「中学生は一人ひとりの個性が強いです。その個性がうまくまとまって、チームとして強くなっていると感じています」と話し、形の指導を行う外部コーチの真由佳さんは、「日頃から部員同士の仲が良く、和気あいあいとした雰囲気練習にも真面目に取り組んでいます。お互いに指導し合うなど、自分たちで工夫しながら技を磨いているのが良い影響を与えていると思います」とチームの強みを話してくれました。そして、「自分の力を出し切ってくれると信じています」とエールを送りました。